

たじみん昼話 70

愛の告白者は 勇者だ

バレンタインデーが終了してから早1ヶ月が経った。そしてまもなく、そのお返しやお返しに該当するとされるホワイトデーがやってくる。

コロナ禍の緊急事態宣言の制限下にあっても、これらのイベント会場が盛況であるところを見ると、これらの告白する日は、まだまだ特別な意味を持つ日であることは間違い無いようだ。もちろん、お世話になった方への義理的な意味合いも混入しているようではあるが。

多治見高校においても告白した人は少なくないようだ。想いが叶うと良いが、いつも上手くいくとは限らない。ひょっとしたら失恋という結果に終わり、とても落ち込んで自信を失くしている人もいるかもしれない。恥ずかしくて学校に行けないと思っている人もいるかも知れない。

でもききょうは言いたい。結果の如何にかかわらず、告白した人は素晴らしい勇気をもった人間である。だから自分に自信を持って欲しいと。その行動ができた自分に誇りを持って欲しいと。

そもそも好きな人に告白する事は容易なことではない。それを行うにあたっては、言うか言わないか散々迷ったはずだ。特別な日だけど、むしろ上手く行かない確率が高いのではないか。告白したために今までの関係性が壊れてしまうのではないか。だったら告白せずにこのままの関係でも良いのではないのか。そんな前後方向への想いによる葛藤が、告白を躊躇させていた事は想像に難くない。それでも、結果としてこのとてつもなく高い壁を乗り越えて告白できたということは、物理心理学（筆者が勝手に考案）の立場から考えても相当なエネルギーを持っていたことになる。だから高エネルギーを持っていた自分を、恥ずかしがるのはおかしい。むしろ褒めて誇りに思うべきなのだ。

もちろんこれからのことを心配する事もない。これからも好きでいるか。新しい人を探すという選択肢もある。もちろん引きずって新しい想いを持つこともあってもよい。ゆっくり落ち着いてから次のことを考えれば良いのである。

ちなみに、告白されると大抵の人が相手のことを意識してしまい、妙によそよそしくして距離を空けてしまうことがある。しかし、その意識が恥ずかしいからなのか嫌なのかは紙一重であり、必ずしも避けている行動とは限らないことは覚えておきたい。

結果がどうであれ、しっかり自分と向き合ったこの経験は、必ずあなたの心と情と考え方を成長させ、これからの未来を明るく広げるだろう。だから、どんな結果になったとしても、自己に誇りを持って笑顔を忘れず正々堂々と過ごして欲しい。

ちなみに高校時代の人と将来も一緒にいる確率は8%だそうだ。即ち、上手く行かなかった人には、まだ92%もの恋の成就確率が残っているのだ。